

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	Winter CHALLENGE 2009 実施報告
Author(s)	森村, 茂
Citation	熊本大学工学部附属ものづくり創造融合工学教育センター 一年次報告書, 平成20年度: 47-48
Issue date	2009-06-26
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/12634
Right	

Winter CHALLENGE 2009 実施報告

Winter CHALLENGE 2009 WG 長 物質生命化学科 森村 茂

1. はじめに

冬の WINTER CHALLENGE は製作コンテストで、テーマは今回で3年目となる「あかり」を継続しました。応募件数は合計9件と少なかったものの、これまでの作品を超えるための様々なアイデアや工夫を盛り込んだ作品が製作・展示されました。コンテストへの連続出場者も見られ、確実な作品の進歩が審査員を感心させる場面もありました。

詳細は後述しますが、建築学科2年浦川史親さんの作品「labyrinth」が最優秀賞を受賞しました。他の受賞作品も含めてものづくり創造融合工学教育センターでしばらくの間展示していますので、気軽にお立ち寄りください。

2. 実施概要

今回は、以下のスケジュールで実施しました。

- 12月2日 テーマ決定(あかり'09)
- 12月16日 ポスター配布、参加申込受付開始
- 12月19日 WEB 受付ページ設置
- 1月31日 参加申込締切(2月16日まで延長)
- 2月27日 出展作品受付(ものづくり創造融合工学教育センター)
- 3月3日 10:30~13:00 1次審査(投票)
14:20~ 2次審査(プレゼンと質疑)
16:50~ 表彰式(学部長より)

審査会場…工学部2号館 212 教室(1次審査)、211 教室(最終審査)

なお、3月3日は平成20年度のものづくり成果報告会と合同で、下記のプログラムで実施されました。

- 10:30~17:00 プロジェクト成果報告ポスター掲示
ただし、12:00~12:40は代表者待機で質疑応答
- 10:30~13:00 WINTER CHALLENGE 2009
1次審査

- 10:30 開会挨拶
- 10:35~11:50 プレゼンテーション(1) 5件
- 12:55~14:10 プレゼンテーション(2) 5件
- 14:20~15:20 Winter CHALLENGE 2009
最終審査会
- 15:30~16:50 学生プロジェクトプレゼンテーション
8件

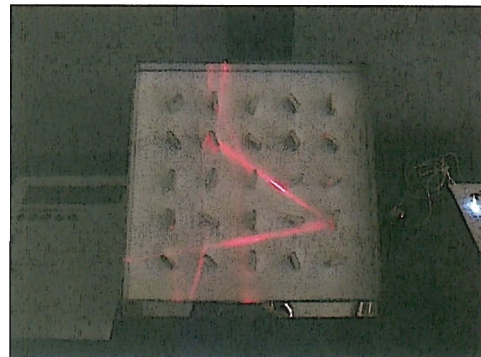
- 16:50~17:00 Winter CHALLENGE 2009 表彰式
- 17:00 閉会挨拶

今回の応募件数は合計9件で、1件は参考出品でした。1次審査には5件の作品が通過し、2次審査の結果、最優秀賞1件、優秀賞2件、入賞2件が選考されました。審査方法については、1次審査では審査委員および学生と教職員によるシールでの投票が実施され、審査委員：大3票、教職員：小3票、学生：小1票の投票形式としました。得点算出では審査委員票2点、教職員および学生票1点として合計点で順位付けを行い、上位5作品を1次審査通過作品として選出しました。2次審査では、審査委員12名による審査が行われました。申し込み順に5分程度のプレゼンテーションを行い、「作品製作目的・着眼点」、「アイデア・獨創性」、「作品の完成度・製作技術」、「作品説明のわかりやすさ」、「テーマとの関連性」を評価項目として審査が行われました。各10点満点で評価し、合計点で順位付けを行い、総合点の最も高いものとして最優秀賞(1件)を選びました。また、着眼点+獨創性の得点が最も高いものとして優秀賞(1件)、および製作技術の得点の最も高いものとして同じく優秀賞(1件)を選出しました。1次審査を通過した他の2作品は入賞となりました。以下に各作品を紹介します。

最優秀賞：「labyrinth」

建築学科 2年 浦川 史親

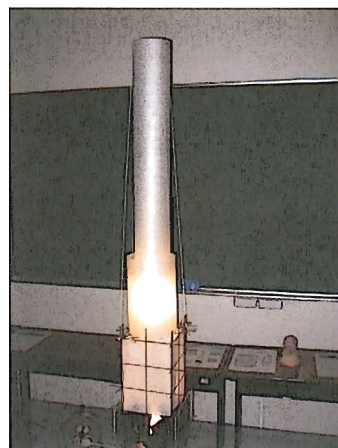
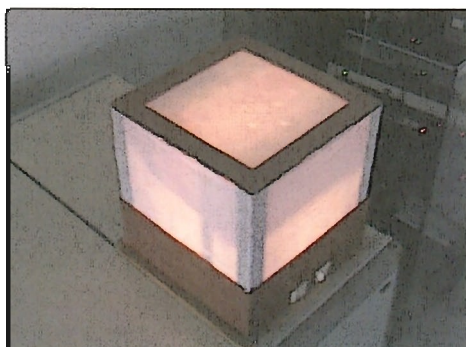
製作者コメント：Labyrinth(迷路)、不思議な空間に惑い、道筋はあらゆる方向に伸びる。そんな軌跡をレーザーを使って表現しました。インテリアデザイン照明となり、遊戯にもなる。光の軌跡は、自分だけの模様に見える。



優秀賞：「水波紋投影機」

機械システム工学科機械系 2年 山之内 寛貴、
山崎 剛志、吉田 浩平

製作者コメント：イルミネーションオブジェ。モーターによる水の揺らぎが織り成す波紋を、下からの強い光によって壁や天井にその波紋を投影させます。日差しの中で水面の反射に揺れる光の束を演出しました。



入賞：「赤い靴」

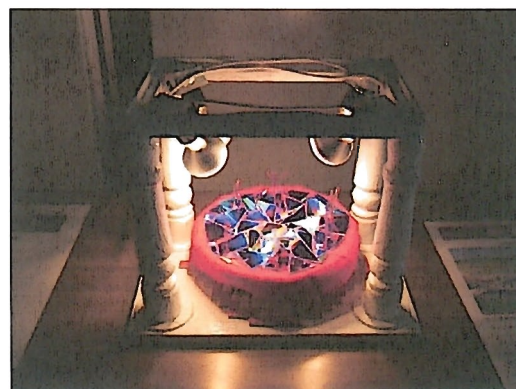
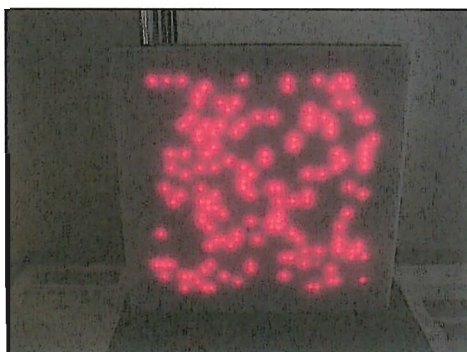
情報電気電子工学科 1年 吉富 仁

製作者コメント：環境問題を考えた持続可能なエネルギーとしてソーラーパネルを使って動かしました。ソーラーパネルが一生使えるエネルギーであることと、アンデルセン童話「赤い靴」の一生踊り続けるという内容をかけて、舞踏会でクルクルと踊り続けているイメージで作りました。

優秀賞：「文字が現れる壁（光る壁）」

機械システム工学科機械系 2年 蒲原 大記
情報電気電子工学科 2年 坂本 達郎
マテリアル工学科 1年 長江 誠二

製作者コメント：単なる白い壁に見える物体に、突然文字やパターンが現れる。乳白色の亚克力板の後ろに64×64の赤色LEDを設置。LEDはマイコンを使用して制御し、タイマーやセンサーにより突然文字やパターンを表示させます。



入賞：「光るカーボンナノチューブ」

マテリアル工学科 4年 布井 啓也、中島 大介、
重野 充伯、岡部 史典、今田 慧

製作者コメント：次世代材料であるカーボンナノチューブをモチーフとしたものです。作品の下に炭を配置し、中に灯りをともしました。中央から上に向かって伸びる筒でカーボンナノチューブを表現しています。身近にある炭素から次世代材料が作ることができることを表現しました。

3. 今後の検討課題

昨年、一昨年に引き続いて、同じ「あかり」をテーマに選定したことで、作品の水準や工夫の仕方に向上が見られました。ただ、多くの作品に参加してもらえそうな工夫が足りなかったために、作品の出展数が少なかったことが大きな問題点として残りました。2月末の締め切りでは各学年ともに後期試験や卒業論文の発表・仕上げの時期と重なるので、講義・演習に製作コンテストを組み込むなど、プログラムとしての取り組みが必要であると考えられます。その点では、平成21年度は「ものづくりデザイン演習 I, II」が各学科共通の講義として組み込まれましたので、平成21年度には学生の活発な参加によるコンテストの充実が期待できます。